別紙様式２－２

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
（次期学習指導要領に向けた実践研究）
成果報告書（概要）

受託団体名
国立大学法人高知大学

１　指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人高知大学	特別支援学校	知的障害	高知大学教育学部附属特別支援学校（こうちだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう）

２．事業の実績

（１）事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 6 月	・本研究の一つの柱でもある日常的な職業体験や雇用に向けた作業学習研究の一環で行っている「菓子工房 hocco sweets」で喫茶サービスを行っていた高等部生徒 3 名がアビリンピック高知大会に参加した。	・アビリンピックの喫茶サービス部門に参加した 3 名の内、1 名が金賞、1 名が銀賞を受賞した。
平成 30 年 8 月	・第 1 回運営委員会を開催 高知大学教授、高知県教育委員会指導主事、高知県教育センター特別支援教育担当チーフ、近隣の知的障害教育特別支援学校教頭、附属特別支援学校各学部主事、前年度と本年度研究部長、副校長に運営委員を校長名で委嘱して、本実践研究事業で取り組む研究の概要説明を行った。 ・高知県教育委員会主催の技能検定に参加	・運営委員からの意見により冊子で紹介する事例を障害種別、発達段階別に整理することとした。次年度は、近隣の知的障害特別支援学校からの事例も募集する方向で研究を進めることとした。 ・アビリンピック喫茶サービス部門で金賞と銀賞になった２名が１級と２級になった。
平成 30 年 11 月	・アビリンピック全国大会に出場	・アビリンピック高知大会で金賞を受賞した生徒が高知県代表として全国大会（沖縄大会）に出場した。
平成 30 年 12 月	・第２回運営委員会を開催 本年度の研究の中心である冊子の発行に向けて概要を説明した。	・本年度の研究の中心である冊子の発行に向けて概要を説明した。

平成 31 年１月	・校内研究会で冊子の概要を報告	・冊子の構成と概要をパワーポイントを使って説明、事例について確認をした。
平成 31 年３月	・「知的障害教育校におけるこれからの時代に即した教育課程の編成と展開」について『自立と社会参加に向けて　高知大学教育学部附属特別支援学校の挑戦』のタイトルで冊子を発行した。（初版製本高等部） ・菓子工房 hocco sweets での喫茶サービスの実践が評価された。	・全国の附属特別支援学校（知的障害教育校）、高知県内の特別支援学校、県内関係機関に発送して評価を受ける。 ・平成 31 年度四国の校長会と教頭会、高知県特別支援学校運営協議会等で冊子を配布して評価を受ける。 ・アビリンピックで金賞と銀賞を受賞した２名が高知大学の学長表彰を受賞した。

（２）研究課題

新学習指導要領の実施にあたり、障害の程度が中・重度や特性が多様な生徒の、自立と社会参加の視点から『知的障害教育校における教育課程の編成とその展開』について実践研究を進める。

（３）研究の概要

本研究では、新学習指導要領の実施に向けて、「知的障害教育校におけるこれからの時代に即した教育課程の編成とその展開」について実践研究を進める。

その方法として、本年度は、知的障害教育校での資質・能力の育成（生きて働く知識・技能の習得）について、社会に求められる「資質・能力」を押さえるため、卒業生の職場での活動など、現状を知ることから始めた。次に、これまでの高知県の知的障害教育の流れと、高知大附属特別支援学校の教育課程の編成について振り返り、整理した。

高知大学教育学部附属特別支援学校（以下本校）には、知的に最重度の判定を受けている生徒や強度行動障害といわれる生徒から一般就労を目指している生徒がいる。そうした多様な生徒の進路希望に応じた指導と支援を行うため、日常的に就労体験ができるように、これまでの作業学習を発展させて事業所化をした「菓子工房hocco sweets」を設置している。また、hocco sweets や事業所化を進めている印刷作業の指導も兼ねた就職支援コーディネーターとジョブコーチを配置して、進路担当と協同して一般企業等への就労率向上に向けて取り組んでいる。さらに、生徒が自立して活動できるための指導法として、課題分析と最小介入法を用いた指導に取り組んでいる。このことについて、高知大附属特別支援学校方式による就労率向上に向けた取組として提案する。

４）研究の成果

本研究では、新学習指導要領の実施に向けて、「知的障害教育校におけるこれからの時代に即した教育課程の編成とその展開」について実践研究を進めた。

本年度は、知的障害教育校の目標とする資質・能力の育成（生きて働く知識・技能の習得）に向けて、資質・能力を示すために教育基本構造図（試案）の作成に取り組んだ。基本構造図で示す資質・能力に関わる項目は、本校卒業生の職場で求められているの活動を分析するとともに、過去の資料も参考にして再構成した。基本構造図は、現在作成中であり、今後も資料の収集や内容の整理と分類が課題として残っているが、新学習指導要領の実施に向けた指標として提案できた。

中・重度等、一人一人の児童や生徒に応じた指導の充実に向けては、知的に最重度の判定を受けている生徒への指導や強度行動障害障害といわれている生徒への指導例など、障害種別・発達段階別に事例をあげて報告することができた。

一般企業等への就労率向上に向けては、高知大附属特別支援学校方式として、①日常的な職業体験「菓子工房hocco sweets」での取組、②就職支援コーディネーターとジョブコーチの配置による就労支援、③生徒が自立して活動できるための指導法として、課題分析と最小介入法を用いた指導について、例を上げで報告することができた。

以上の取組を冊子として報告することができた。

（５）課題と今後の方策

本年度の研究では、新学習指導要領の実施に向けて、知的障害教育校の教育課程の編成やその展開に向けて研究した。この中では、これからの時代に必要となる資質・能力については、一定方向性を示す指標として、教育基本構造図等を試案として提案することができた。しかしながら、内容の精選や文言等については、今後も研究を進め、よりよいものに改善する必要がある。

また、学習指導要領改訂の方向性に示されている「何を学ぶか」「何ができるようになるか」については、今回の研究で大筋を示すことができたが、「どのように学ぶか」については研究途中であり、報告するまでには実践と時間を要するため、課題として残っている。

この「どのように学ぶか」については、これからの時代に必要となる資質・能力の育成に向けた「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業づくりとその展開について、実践研究を進めている。その成果については、次年度の報告書や研究紀要25でも報告する予定である。また、2020年2月8日開催予定の教育研究会で報告し、評価を受ける予定である。